

# 黄金のベンガル イスラム最大の巡礼祭を撮る！

## 南アジアの隠れた至宝 バングラディッシュ撮影ワークショップ

持田あきら(日本旅写真家協会正会員)同行  
バングラディッシュ国際写真協会BPA主催

### 【日程】

2025年1月5日～13日  
8泊9日(ダッカ発着)

### おすすめポイント

最少催行人数4名～

- ①現地集合＆解散型の撮影ワークショップ
- ②イスラム最大の巡礼祭に合わせたスケジュール
- ③プロ写真家による撮影指導(初心者歓迎)
- ④世界中の写真家が注目する撮影ポイントを適切なタイミングでご案内
- ⑤ホテルは全て4-5ツ星ホテル利用
- ⑥専用車での移動

### こんな方におすすめ！

通常のツアーでは殆ど催行されない、僻地での希少な撮影を経験したい！  
プロ写真家による現地指導で、自分の撮影スキルを向上させたい！  
フォトコンへの入賞を狙う！

### お勧めの撮影スタイル

- ★路上撮影(ストリート フォトグラフィー)
- ★ポートレート撮影
- ★鉄道写真
- ★船舶写真
- ★ドキュメンタリー
- ★風景写真

★このワークショップは、バングラディッシュ写真協会BPAとのコラボとなります。

BPA会長のYousuf氏は世界的に有名な写真家です。

彼の企画するワークショップには、世界中から多くの写真家が参加する事で知られています。

バングラディッシュを深く知るプロ写真家のBPAスタッフ達が、タイミングに応じて最適な撮影場所を提供します。バングラディッシュの撮影では絶対の自信をもっており、他では真似できない強みがあります。

**料金 USD 2,500(2人/部屋) USD2,900(シングル利用)**

※過去に持田あきら海外ワークショップにご参加の方は、上料金よりUSD50値引き致します。

### 料金に含まれているもの

- ①4-5ツ星ホテルの宿泊 8泊分
- ②全食事付(夕食は中華、タイ、ベンガル料理、海鮮BBQ等)
- ③空港送迎、国内線航空券を含む全ての移動
- ④撮影指導及び現地でのイメージに合わせた演出等

### 以下のものは料金に含まれていません

- ①日本からダッカまでの航空券
- ②アルコール及び提供される食事以外の間食等
- ③ホテル内のミニバーやランドリーサービス、マッサージ等の利用
- ④提供される移動手段以外の個人による移動費等
- ⑤チップ及びお土産
- ⑥旅券発行にかかる費用及び海外旅行保険

# 巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

## 撮影HIGHLIGHTS

### 名物混雑列車と祈りの風景

1942年以来ダッカ郊外で開催される【ビシュワ・イジテマ】には、世界150ヶ国から200-300万人のイスラム教徒がダッカを巡礼に訪れます。

会場のあるトンギ周辺では、無数の人々を乗せた鈴なりの混雑列車が朝靄の中を行き来する幻想的な風景を見る事ができます。

更に、アザーンの祈りの時間には路上を埋め尽くす人々がメッカに向けて一斉に祈る姿は、神々しくも衝撃的です。私達には馴染みの薄いイスラムの習慣に触れる貴重な体験でもあり、他では見る事のできない情景に言葉を失います。



© by Akira Mochida



© Yousuf Tushar | [imagestoursbd.com](http://imagestoursbd.com)

## 巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

### 撮影HIGHLIGHTS

#### 船の墓場と縫製工場

オールドダッカを挟んだブリガンガ川沿いには通称【船の墓場】と呼ばれるスラムが広がっています。

此処では、役目を終えた船舶が世界中から集まっています。これらの古い船は費用や環境の問題から、帰属する国での解体を避けて、遠い航海の末にこの地で最期を迎えます。

これらの船は各部品毎に分解されていきますが、驚く事にこれらの危険な作業の多くは1万人以上の肉体労働者のマンパワーにより支えられています。その中には子供達も含まれており、発展途上国の現実を目の当たりにする事でしょう。

又、船の墓場に隣接する一帯では、多くの零細の縫製工場があります。

これらの工場は世界中のアパレルメーカーのOEMとして縫製の行程を担っています。



©撮影 上/持田あきら

©撮影 左下/Yousuf Tushar 右下/持田あきら

## 巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

### 撮影HIGHLIGHTS

#### 煉瓦工場

首都ダッカ近郊にはブリガンガ川沿いに大小300もの煉瓦工場があります。

ヒマラヤ山系を源流とするブリガンガ川は肥沃な土を運び、これらの粘土質の土は煉瓦を作るのに非常に適しています。煉瓦工場の周辺には労働者が暮らすスラムが点在しており、一家総出で煉瓦を運ぶ光景を見る事ができます。

驚く事に、これらの作業のほぼ全てが人海戦術によって担われています。

非常に厳しい環境ですが、そこに働く人々の姿は悲しくも美しく、素晴らしくも貴重なポートレート写真を撮る事ができるでしょう。



©撮影 上/Yousuf Tushar

©撮影 左下/持田あきら 右下/持田あきら

## 巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

### 撮影HIGHLIGHTS

#### 世界最長の海岸に暮らす人々

ベンガル湾の東海岸には全長120kmを超える世界最長のビーチがミャンマー国境まで続いています。

そこに暮らす人々は、インド洋の豊かな恵みを楽しみながら暮らしています。

漁村では、伝統的な手法により次々と陸揚げされていく魚介類。

それらの殆どは機械化される事なく、日焼けした大勢の男達によりリズムカルに運ばれていきます。

浜辺に隣接した漁村には、幾万匹もの吊り下げられた太刀魚やバラクーダの干物が、南国の太陽に照らされてキラキラと輝いています。私たちは国内最大級の干物を加工する村を訪れます。

この一帯には1千を超える家族経営の干物の加工場があり、3万人の漁民の生活を支えています。

それらの多くは女性ですが、その傍では男達が網を繕ったり、子供達が遊び、海に目を向けると通称ムーンボートと呼ばれる漁船が波の狭間に浮かぶ姿が見られます。



© by Akira Mochida

# 巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

## 撮影HIGHLIGHTS

### 知られざる黄金のベンガル

バングラディッシュには著名な世界遺産やリゾートは殆どありません。そのため海外から訪れる旅行者も隣国のインドやタイに比べると遥かに少なくマイナーな旅先といえるでしょう。

然しながら、その分ベンガルの人々は常に私達旅人を温かく迎えてくれます。

この国の殆どの人々は敬虔なイスラム教徒です。彼らはコーランの教えに倣い、常に旅人に対し笑顔で接してくれます。



# Welcome to Bangladesh

©撮影 左下/Yousuf Tushar 左上 右/持田あきら



**同行講師 持田 あきら**（日本旅写真家協会正会員/多摩美術大学卒）

今年も巡礼祭に合わせてバングラディッシュでWSを開催致します。

日本の方には馴染みの薄い国ですが、素晴らしい写真題材が溢れており、世界中の写真家が注目する国のひとつです。

今回も私の友人であり、バングラ国際写真協会会長のYousuf氏とのコラボで行います。

バングラディッシュ国際写真協会による全面支援の下、私が終日に渡り同行しますので、初心者にも丁寧に指導させていただきます。



**Yousuf Tushar**（バングラディッシュ国際写真協会会長/ダッカ大学卒）

私の国、バングラディッシュには世界中から多くの写真家が訪れます。

然しながら、日本人の写真家は僅かです。

私はこれまで世界中を撮影で訪れておりますが、日本はとても美しく好きな国です。

写真家のあきらは、私の友人であり、何度も一緒に撮影を共にしました。

今回、日本の写真家の皆さんに、私の国を紹介できる機会に喜びを感じています。

9日間のワークショップでは、できるだけ皆さんと一緒に撮影できる機会を作りたいと思っています。



これまでに開催されたワークショップにご参加頂いた日本人写真家の皆様とYousuf氏 撮影/持田あきら

## バン格拉デシュVISAの取得

### 到着VISA

日本人は到着時に15日間のBOAビザ(Visa on arrival)が無料で取得できます。  
ビザ取得に必要な書類(招聘状)は出発前に配布致しますので、到着までにプリントアウトして持参して下さい。  
尚、到着ビザ申請時には、観光ビザとなるので入国目的は【観光sightseeing】と記載して下さい。

### その他の必要事項

入国規制に関しては、随時最新の情報を確認して下さい。

## ワークショップの責任範囲

今回僕が主催する撮影ツアーはワークショップという形態をとっています。  
これは、現地発着型の撮影指導を前提としており、海外では多くの写真家が同様のツアーを催行しています。そのため、現地までの移動方法、ビザ手配は全て参加者各個人の責任に於いて対応して頂きます。  
航空機のキャンセル等により、当日までに現地に入れない場合は、他の参加者のツアー催行を優先するため状況によってはワークショップへの参加をお断りする事もあります。  
その為、フライトに於いては無理のないスケジュールでお手配願います。  
催行中は参加者の安全を第一に対応致しますが、不慮の事故や病気に備えて必ず各自の責任に於いて旅行傷害保険にご加入下さい。  
参加者の方に病気や怪我、政変や天候等による大きな問題が発生した場合、状況に応じて対応を致しますが、その際ツアーの一部もしくは全てを途中で中断する事もあります。途中で未催行もしくは大幅な変更が生じた場合は、都度誠意をもって対応致しますが、場合によっては返金に応じられない場合もありますので、予めご了承願います。  
不明点等は、別途お問合せ下さい。

line ID [kurohei0725](#) Mail [mochidakurohei@gmail.com](mailto:mochidakurohei@gmail.com)

## その他 QandA

### 1.写真愛好家ではありませんが参加できますか？

→勿論OKです。写真愛好家でなくとも貴重な機会なので十分に楽しむ事ができると思います。

### 2.今回のワークショップにお薦めの機材はありますか？

→基本的にはフルサイズ換算で24-120mmの焦点距離があれば殆どの撮影に有効です。  
煉瓦工場やコックスバザールのビーチ、混雑列車の撮影では70-200mmの画角があると表現に幅がでるので、本格的に撮影するには15-24mm 24-70mm 70-200mmの大三元があると良いでしょう。

### 3.現地でメモリーカードを購入できますか？

→基本的にはできません。ダッカ市内では購入ができますが、店舗は限られており特にSQDカードは入手が難しいので十分な容量のカードを持参して下さい。

### 4.事前に準備もしくは練習しておく事はありますか？

→カメラとレンズ以外には、予備電池、充電器、プラグ、ブローア、スプレー等のクリーナーキットがあると便利です。  
センサー幕の無いカメラの場合、レンズ交換時に埃が付着するのでブローアは必須です。  
又、初心者の中にはカメラの基本設定ができない方を時々みかけます。連写機能やフォーカス範囲、AF-CとAF-Sの切換、露出補正等基本的な設定ができるように事前に練習しておく事をお薦めします。  
オート又はプログラムでも撮影は可能ですが、重要な設定をコンピューターに任せると、自分のイメージした写真を撮る事はできません。  
予め、メーカーのWebからカメラの取説をスマホにダウンロードしておく事も有効です。

### 5.その他機材関連で注意する点は？

→バッテリーや機材は必ずハンドキャリーにして下さい。  
預け荷物の中にパワーバンクやバッテリー、ライターがあると目的地まで荷物は輸送されず、一時的にロストバゲージとなります。  
一度ロストすると、ツアー中に荷物を確保する事は難しく撮影そのものができなくなります。  
その為、機材に関してはできるだけチェックインバゲージとし、予想外のロストバゲージに備えて下さい。

### 6.海外旅行初心者で英語も殆ど話せませんが、大丈夫でしょうか？

→特にトラブルが無い限り英語が話せなくても問題はありません。早めに空港に到着し、案内板を何度も確認する

等、余裕をもったスケジュールで行動して下さい。

英語に関していえば、流暢に話す必要は無く最低限の英単語のみでOKです。現地では僕が随行しますので、ツアー中に於ける言葉の問題は殆ど無用です。

### 7.現地でのネット及びSIM事情は？

4GのSIMカードが空港で販売されていますので購入可能です。その場でActivateできますが、日本国内の一部のスマホは予めSIM FREEに設定する必要があります。詳細は、契約しているキャリアにお尋ね下さい。

宿泊先のホテルの殆どにはWiFiがありますが、通信速度にはムラがあります。

### 8.現地での両替

→現地の通貨は空港内で両替可能です。市内の方が若干レートは良いです。

円からタカよりもドル(100ドル札)の方がレートは良いと思います。両替の際は、必ず目の前で枚数を確認し、穴の開いた札や、ペンの跡やスタンプがあると使えません。

### 9.現地での衛生環境が心配です。

→ホテル、レストランは衛生的に問題の無いレベルの所をお手配致します。

基本的に、インドよりも衛生状態は優れており、過剰な心配は無用です。

### 10.その他、持参した方が良いもの等

#### プラグ

バングラデシュで使われている電源プラグはD・BF・Cの3タイプです。日本ではAタイプしか使われていませんので変換器は必須です。(一部高級ホテルでは日本のAタイプもOK)

#### ベープマット

夜就寝時に蚊がいると睡眠不足になります。スプレータイプのものや、ベープのような加熱式等があると便利です。

#### スカーフ(女性の場合)

バングラデシュでは、イスラムの習慣に伴い女性はヒジャブという布で髪を隠す習慣があります。

現地の宗教的な慣習をリスペクトする為、外出時にはヒジャブの着用をお勧めします。

### 11.現地ではビール等飲酒は可能ですか？

→可能ですが困難です。

市内にはリカーショップが幾つかありますが、看板も無く見つける事は困難です。冷えたビールはありません。

一部の高級ホテルではバーがありますが、非常に高額です。巡礼祭の間はこれらの場所も閉店しており、実際に手に入れる事は困難なので、予め必要な分だけ持ち込むのを勧めします。